

紀伊國屋書店スタッフが**全力**でおすすめるベスト30

キノベス!

KINOKUNIYA
BEST BOOKS 2022

1位 『同志少女よ、敵を撃て』
逢坂冬馬 〈早川書房〉

2位 『正欲』 朝井リヨウ 〈新潮社〉

3位 『テスカトリポカ』 佐藤究 〈KADOKAWA〉

4位 『スモールワールズ』 一穂ミチ 〈講談社〉

5位 『夜が明ける』 西加奈子 〈新潮社〉

いつまでも残しておきたい、
読み継がれてほしい 児童書・絵本ベスト10

キノベス! キッズ

私が抱きしめた一冊

1位 『エルマーのぼうけん』
作：ルース・スタイルス・ガネット 絵：ルース・クリスマン・ガネット 訳：渡辺茂男
〈福音館書店〉

2位 『モモ』 作：ミヒヤエル・エンデ 訳：大島かおり
〈岩波書店〉

3位 『どうぞのいす』 作：香山美子 絵：柿本幸造
〈ひさかたチャイルド〉



キノベス！第1位『同志少女よ、敵を撃て』

逢坂冬馬さん 特別寄稿

本作で舞台として扱い、あるいは言及した地域の名称は、執筆の最中であった2020年から、出版を迎え年が明けた2022年初頭の今に至るまで、悲しいニュースとして常に報道され続けています。果たして自分がこの小説を書いた「意味」とはなんであったのか、と途方に暮れることもしばしばでした。

しかし本作を書き終えた私は、少なくともこれら無数の悲しみを他人の事として自分自身から切り離すことができなくなりました。私個人にとっては、それが「意味」であったようにも思えます。

この度は「キノベス! 2022」第1位に選出いただき、まことにありがとうございました。

紀伊國屋書店様のウェブサイトは、書影が出る前からトップページに本作の赤いバナーを表示していただき、大変嬉しい驚きを覚えた記憶があります。また、発売直後の書店巡りでは、各店舗の皆様にも熱い感想をいただき、あるいは手書きのポップや作品解説など、素晴らしい展開を直に見て驚喜いたしました。

小説が売れるのは作家一人の力量ではなく、書店員の皆様の力強い後押しがあつてのことと感謝申し上げます。

また、本作の出版をめぐることは、各書店で主要参考文献一覧に記載した書籍を中心に、「関連書物を併売する」というあまり類例がないキャンペーンをしていただき、こちらも盛り上がりを見せております。私自身、膨大な参考資料に支えられて小説を書き上げた身ですから、それらの売りに貢献することができれば大変嬉しく思います。

そして、もしも私の小説を読んでくださった読者の皆様、それをきっかけに、過去と現代を問わず、現実の戦争を想起し、そこに生じる人間の痛苦に思いを致すということがあられるならば、自らの行為が無駄ではなかったと信じることができます。

圧倒的な現実を前に、文学の力は非力ではあっても無力ではないと信じて。

逢坂冬馬 あいさか とうま

1985年生まれ。明治学院大学国際学部国際学科卒。本書で、第11回アガサ・クリスティー賞を受賞してデビュー。埼玉県在住。



© Hiroshi Hayakawa

キノベス!

2022

「キノベス」は過去1年間に出版された新刊を対象に、紀伊國屋書店で働く全スタッフから公募した推薦コメントをもとに選考委員の投票でベスト30を決定し、お客様に全力でおすすめしようという企画です。今年は17名の選考委員が全社から集まった応募コメントを熟読し、ベスト30を決定しました。

当社のスタッフが自分で読んでみてほんとうに面白いと思った本ばかりを自信を持っておすすめします。店頭で、ぜひお手にとってご覧ください。



第1位

小説

『同志少女よ、敵を撃て』

逢坂冬馬

早川書房 2,090円

隅から隅、何から何まで傑作。新しい冒険世界の幕開けの鐘が鳴り響いています。女が生きる、世界を生き抜く物語をこんなに私は待っていたんだ……と知りました。今も尚、彼女たちの血が私の身体にもどどん流れ込んで沸騰し続けています。その血の色は世界中の燃え尽きる事のない祈りの炎の色です。 安倍香代/ゆめタウン徳島店

読み終わったあと、どうかもう一度、タイトルの意味を考えてみてください。「敵」とは誰のことなのか。セラフィマが何のために戦い、何のために生きていこうと決意したのか。本を閉じるときには、彼女が最後に見つけた風景を、あなたも一緒に見ているはずです。 西村睦美/福岡本店

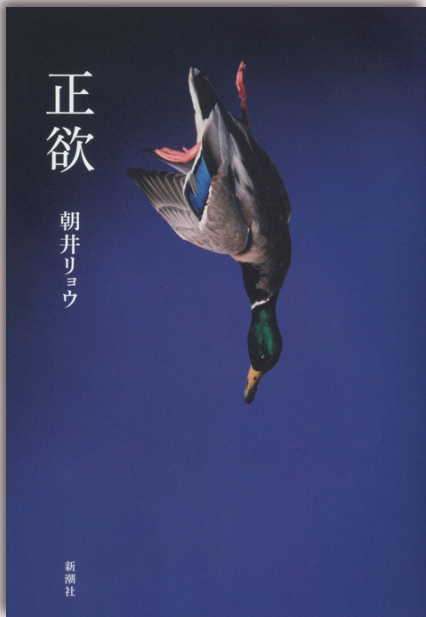
独ソ戦の中でスナイパーとなった少女たちの物語。セラフィマがスコープを覗く時、私達も一緒にそこでそれを覗いているだろう。みなぎる緊迫感の中で。全ての人が戦争に巻き込まれ、もがく。その苦しみ、悲しみをも描いた反戦歌ともいえる一冊。 伊藤穂/名古屋空港店

背景が戦争であるも重たすぎず、ただエンタメ小説の枠では納まりきらない壮大な何か心が沸き立つ！ 戦いで足掻くちっぽけな存在の指先から魂にまで刻まれるその衝撃と計り知れない重み、何のために戦い、何を残し、その結果、瞳に宿す世界をどうか見逃さないでください。

豊永大/グランフロント大阪店

引き金を絞る瞬間の描写に息をのむ。独ソ戦、女性の従軍、真の敵……物語の中には他にも色々あるけれど、狙撃の瞬間そこにあるのは「無」なのだ。他には何もない。ただ「無」だけがあるその瞬間を、戦争が「私」すら奪うその瞬間を見てほしい。 香川幸恵/ゆめタウン廿日市店

ドイツ兵に家族と故郷を奪われた少女・セラフィマは、復讐のため狙撃手となり激戦地スターリングラードへ向かう……フルスロットルで繰り広げられる怒涛の展開は一气読み必至！ 政治や戦争に人生を大きく狂わされた人々の姿が余りにも哀しい。「敵」という言葉に込められた意味を深く考えさせられます。 佐貫聡美/和書販売促進部



第2位

小説

『正欲』

朝井リョウ

新潮社 1,870円

これを読んだ後、なにも読めなくなった。 原口葵/梅田本店

読む前と後で世界を見る目ががらりと変わってしまい、もう読む前の認識には二度と戻れない恐ろしい小説。あまりに衝撃が強いのので「読んでみて!」と気軽には勧められないけど、文学でしか体験できないショックを受け止める覚悟のある読者はぜひ。

千葉拓/ららぽーと横浜店

みんなそうだから? みんながやっていることだから? 今までの「常識」が粉々に崩れていく。なんだかんだ言って結局、自分の想像力の範囲内でしかものを見ていないじゃないか——。打ちのめされた。それでも、この本に出会えてよかった。そうでなければ、到底気づけなかった。

吉田咲子/徳島店



第3位

小説

『テスカトリポカ』

佐藤究

KADOKAWA 2,310円

酷いし、惨いし、許されない内容……なのだけど! お……面白い! 読むの止められないっ! これ程の凄惨な内容、娯楽度、中毒性で『合法』なのはありがたい。小説の面目躍如だろう。禍々しく黒光りする怪作。

生武正基/新宿本店

一年でどの本が一番良かったかを即答できる年のほうが少ない。今年は「テスカトリポカ」があったから稀な年だ。こんなにも危険な起爆剤がすぐ手の届くところにあるのに、もう全国にばら撒かれてしまったのに、あなたはなぜ手にしない?

臼井沙輝子/新宿本店

圧倒的傑作。読後の充実感今年最高作。すでに山本周五郎賞と直木賞を受賞しているのでもはや何も言うことはないけど、佐藤究さんの他の作品も、ものすごいのでぜひ読んでほしい。

千葉拓/ららぽーと横浜店



第4位

小説

『スモールワールズ』

一穂ミチ

講談社 1,650円

これは絶対に推薦しないと！ 物語に見え隠れするキラキラしたもの。誰かの人生の一部を見ているよう。無意識に怒って涙して、喜んで涙して。なんでこれが1冊なの？ 気持ち的には6冊分の想いが詰め込まれている。ああ、神様！ 新しい出逢いに感謝いたします！ 小川由起／笹塚店



第5位

小説

『夜が明ける』

西加奈子

新潮社 2,035円

心に体当たりしてくるような文章、というのだろうか。痛い。それでも読むのをやめられなかった。救いようのない暗闇の中にいるようでも、どうか自分を追い込まないで。光の気配だけは確かに感じる。こんな時代だからこそ、ぜひぜひ手に取っていただきたい一冊です。 吉田咲子／徳島店



第6位

エッセイ

『常識のない喫茶店』

僕のマリ

柏書房 1,540円

ずっと「お客様が気持ちよく帰っていただける接客」が理想でした。いや、今でもそう思います。でも、自分が嫌な気持ちになるような理不尽なお客様にも、それは必要なのだろうかという思いが湧いてきた頃に、この本に出会いました。本当に読んでよかったです。固定概念がぐるんと覆りました。 浅野加奈子／オーロラタウン店



第7位

小説

『自由研究には向かない殺人』

ホリー・ジャクソン 訳:服部京子

東京創元社 1,540円

ミステリーの素晴らしさ、楽しさがぎゅうぎゅうに全部詰まっています。初めてミステリーに出会った頃、楽しくて興奮してもっと読みたくて眠れなかった夜を思い出し、主人公と一緒にラストまで駆け抜けました。王道であり新しく、素晴らしい翻訳と瑞々しい空気。ああ、ずっとずっと読んでいたいです。 安倍香代／ゆめタウン徳島店



第8位

エンターテインメント

『100万回死んだねこ』

福井県立図書館

講談社 1,320円

覚え違いタイトル集

この本の出版を知ったときから、これはキノベスに推薦せねば！ と直感していた一冊（もちろん刊行後すぐに読破した）。章題の一つに「よくわかりましたね」とあるが本当にその通りで、書店員とはまた違う角度で本のプロフェッショナルである図書館員の皆さんへ、心からのリスペクトとエールを送りたい。 花田葉月／デジタル情報営業部



第9位

小説

『死にたがりの君に贈る物語』

綾崎隼

ポプラ社 1,870円

本が好きな人たち、本ができる過程に携わっている人たち、これから本を読もうと思っている人たちに捧げたい一作。私たちはこういう小説を皆さまに届けるために働いているのだと思う。本を愛する人たち全員に手に取ってもらいたい。 辻本彩／梅田本店



第10位

小説

『ここはとても速い川』

井戸川射子

講談社 1,815円

この本を読んでいると、泣いてしまう、というより、涙が出てしまいました。そして、それはとても自然なことのように思えて、僕はただ涙を拭いて本を閉じるのですが、本棚には仕舞うことができずに、枕元に置いてしまいました。 猪股康太／国分寺店



第11位

小説

『リボルバー』

原田マハ

幻冬舎 1,760円

ゴッホという太陽を追う向日葵のような人生を、ゴーギャンは過ごした。そして、リボルバーの謎に迫る冴もまた、真相を追う向日葵であった。全ては過去の話。ただ、だからこそ、リボルバーのごろっとした存在感が妙に生々しい。

米本教助／学校教育ICT推進センター



第12位

コミック

『海が走るエンドロール』

たらちねジョン

秋田書店 各660円

“好き”に情熱を持って楽しむ事に年齢や性別、環境は関係ない。“創造の海”を目の前にして生まれる衝動や葛藤に向き合う主人公達がなんだか眩しく羨ましい気持ちになりました。創作をしている人、してみたい人、してみたかった人、老若男女……様々な人に刺さる事間違いなしです。

田島沙季／札幌本店



第13位

短歌

『みじかい髪も長い髪も炎』

平岡直子

本阿弥書店 1,999円

見えないものに目を凝らすとき、そこにはなにもないはずなのに、「見えないもの」を希求する強い感情と「目を凝らす」行為に託された想いが言葉という輪郭のぼやけた形のなかで光っていて、その光だけは忘れずにいられるようにと願わずにはいられませんでした。 猪股康太／国分寺店



第14位

社会

『1万人の脳を見た名医が教えるすごい左利き』

加藤俊徳

ダイヤモンド社 1,430円

「選ばれた才能」を120%活かす方法

左利きへのあこがれがある

左利きの人をみるとみんな賢く見える

左利きはやっぱりいいことだらけなんだ

左利きになりたくなる本

完全右利きを悔やむ……

宮崎るみ子／加古川店



第15位

エッセイ

『まとまらない言葉を生きる』

荒井裕樹

柏書房 1,980円

誰もが享受するはずの“ふつう”の生活を手にするために、理不尽な力へ抗うマイノリティの人々。その声は、とても力強く、魅力的だ。

言葉が蔑ろにされる時代に息苦しさを感ずる人たちへ、私はこの本を届けたい。 池田匡隆／ゆめタウン下松店



第16位

小説

『7.5グラムの奇跡』

砥上裕將

講談社 1,705円

視能訓練士という仕事があることを初めて知った。普段、生活していると「見えること」が当たり前に思えてしまうけど、実は「見えること」がどれだけありがたいことなのか、ということを変えて考えさせられた。不器用だけど、まっすぐであたたかい視能訓練士に感謝。 北村通英／国分寺店



第17位

小説

『琥珀の夏』

辻村深月

文藝春秋 1,980円

辻村深月さんからはいつも、罪に対する罰の重さを問いか

けられている気がする。時を止めた琥珀のようにずっと忘れられていたあの夏。砕け散った時、罪の記憶はいとも簡単にあの頃に自分を連れ去った。だけど、いくつになってもどこにいても、大切なものは必ず取り戻せる。自分と向き合う覚悟ができれば。 平野千恵子／イトーヨーカドー本場店



第18位

映画評論

『サメ映画大全』

知的風ハット

左右社 2,200円

サメ映画、それは日本に芽吹いた1つのジャンル。名作『ジョーズ』を筆頭に空を飛んだり頭を増やししたりと、設定と勢いだけで誕生したのでは？ という作品たち。そんなサメ映画の虜になった我々を満足させる唯一の本、それがサメ映画大全。 岡田和香奈／前橋店



第19位

小説

『花束は毒』

織守きょうや

文藝春秋 1,870円

人が死なないミステリーを生まれて初めて読みました。ミステリー＝殺人が定説だと思い込んでいたので、固定概念がひっくり返されました。読むなら、何も事前情報を入れないで欲しいです。邪念は捨てて純粋にストーリーを追ってください。ラストは恐怖と痛いくらいの鳥肌が感じません。 海老原歩末／新宿本店



第20位

児童書

『たまごのはなし』

しおたにまみこ

ブロンズ新社 1,210円

最初ひんやりとした美しい姿に魅かれたが、読み進めるうちにたまごのあまりの身勝手さに震えた。さらに読み進めると不本意ながら親近感がわき、もしかしたらこのたまごは私の中にもいるかもしれないと思いはじめる。こわいこわい。でもくせになる。そして何度も読むことになる。

竹下心／ゆめタウン博多店



第21位

小説

『赤と白とロイヤルブルー』

ケイシー・マクイストン 訳:林啓恵

二見書房 1,518円

登場人物のスキルの高さやちょっと現実離れた設定がティーン向け小説のようであるが、だからこそティーンたちにこの物語を今一番ホットなロマンス小説として読んでもらえたなら、未来は今よりすこし生きやすくなるかもしれないと思ってしまう本。 牧野美沙都／入間丸広店



第22位

小説

『狂女たちの舞踏会』

ヴィクトリア・マス 訳:永田千奈

早川書房 2,640円

世間の“常識”にそぐわない女達が集められた精神病院。女を怖がる男にそれに迎合する女、今よりもずっと閉塞感を感じていた彼女たちのそれぞれの選択が、静かに余韻を残す。今まで自分の“普通”を疑って来なかった人にこそ読んで欲しい。

玉本千幸/新宿本店



第23位

コミック

『島さん』

川野ようぶんどろ

双葉社 各693円

コンビニ夜勤バイトの島さん。ヘルプであちこちの店舗に行くとか!接客あるあるもさることながら、島さんを読んでいると寒い冬の日にホットドリンクで温まるようなほっとした気持ちになります。

女川万里奈/金沢大和店



第24位

小説

『ブラック・チェンバー・ミュージック』

阿部和重

毎日新聞出版 2,200円

愛してみたい。誰かを愛してみたい。でもしたいからって私にはできそうにない。そう思っているのに、手を伸ばしてしまう。こんなラストを見せられたら愛まで手が届くんじゃないかと思ってしまう。ずるいほど美しい。孤独や孤立から手を伸ばした先には優しさや愛があると信じたくありません。

安倍香代/ゆめタウン徳島店



第25位

小説

『インディゴ』

クレメンス・J・ゼッツ 訳:犬飼彩乃

国書刊行会 3,520円

魅惑的謎・異様な構成によって本自体が思考を始め、読む者から理性を巻き取ることで深層に沈み込んでいく。鮮烈な景色を浮かび上がらせるのは、フェイクが斑に染め上げるフィクションの隙間。これは推理などという行儀の良いものではない。しかしそこから推理が始まるのだ。

當麻卓也/国分寺店



第26位

ノンフィクション

『アンオーソドックス』

デボラ・フェルドマン 訳:中谷友紀子

辰巳出版 1,980円

ユダヤ教の超閉鎖的宗派「ウルトラ・オーソドックス」から脱出した著者の自伝。厳格な戒律や性差別に牢獄のような生活を強いられた彼女を救ったのは「物語を読むこと」だった……どんなに困難な状況でも人の心から「想像力」だけは奪うことができない——ひとり果敢に道を切り開く著者の姿に胸打たれる。

佐貫聡美/和書販売促進部



第27位

絵本

『あんなにあんなに』

ヨシタケシンスケ

ポプラ社 1,320円

10歳の子どもの母でもこんなに思い出いっぱいできけるのに、あと10年、20年もたって読んだらどうなってしまうのだろう。いつか我が子が親になって同じ気持ちになってくれるだろうか。

松倉桑子/新宿本店



第28位

小説

『黒牢城』

米澤穂信

KADOKAWA 1,760円

読み終わって、「あ、これは年末まで返品せんと持つとかかな」と確信。米澤穂信×歴史小説=想像をはるかに超えた傑作ミステリでした。

小澤康基/徳島店



第29位

小説

『アンソシアル ディスタンス』

金原ひとみ

新潮社 1,870円

金原小説の特徴のひとつである同時代性が存分に楽しめる一冊。ストロング缶、整形、婚外の関係、コロナ禍、激辛食品……それぞれの短編に横たわるモチーフは全て他人事ではない。自分の人格のうちの普段は隠しておいている一部が刺激される、「今」読まなければもったいない小説。

山田萌果/札幌本店



第30位

小説

『らんとん』

柚木麻子

小学館 1,980円

朝ドラや大河ドラマを観ているよう。主人公たちが作ってくれた「シスターフード」の延長線上に私たちがいることを教えてくれた。彼女たちと共に泣き、笑っていた。本当に感情が揺さぶられ続けた。読後も忘れられない。胸に灯ったこの気持ちを私も誰かと「シェア」したい。

大森輝美/さいたま新都心店

選考委員が選ぶ！ 2021年の収穫

ベスト30を選んだ選考委員に、キノベスト2022には惜しくもランク外になってしまったものの個人的にはとてもオススメしたい1冊を挙げてもらいました。

小説

『月曜日の抹茶カフェ』

青山美智子
宝島社 1,500円

登場人物や視点が変わりながらつむがれる12カ月の短編集。どこか自分に重なるところもあるような。覚えがあるように感じる。心がほっこりしたり、じんわりうるんだり、人と人のつながりを感じるほっと温まる作品です。幸せな気持ちになりました。

傳甫雪見／札幌本店

小説

『幸いなるハリー』

イーディス・パールマン 訳：古屋美登里
亜紀書房 2,420円

『静観』という短編のうつくしさに言葉を失った。常人には見えるはずのない色彩が、顔の裏に焼きついていつまでも離れない。

田中沙季／小田急町田店

小説

『追憶の鳥』

阿部智里
文藝春秋 1,650円

「墜落の鳥」？ と言いたくなるほど、読んだ人のメンタルが落下する八咫鳥シリーズ最新刊。同時発売のコミカライズと合わせて読むとますます心の震えが止まらなくなります。

小野里由美子／前橋店

小説

『水よ踊れ』

岩井圭也
新潮社 2,420円

中国返還前夜の香港、という歴史的転換点を舞台にスリリングな物語がページを追うごとに加速する。文学も芸術も「境界」から生まれると常々思っているけど、この作品はまさに「境界人」たちの物語だ。歴史に翻弄されながらもかすかな希望をつかみとる。胸が熱くなる傑作。

千葉拓／ららぽーと横浜店

小説

『原因において自由な物語』

五十嵐隼人
講談社 1,815円

ミステリ好きにはこの作家のおかげで（せいで）ミステリにハマったという出会いが絶対にあるはず。私にとってはそれが五十嵐隼人だ。現実日々直面している弁護士が作り出す虚構、巧みな心理トリック。私にミステリの魅力を教えてくれてありがとう。この本を売ることでも恩返しをした。

白井沙輝子／新宿本店

社会

『「非モテ」からはじめる男性学』

西井勇
集英社 924円

「すべての非モテ男性必見!!」 外見・学歴・収入などで問題のある男性がジェンダー規範や時代の変化で生きづらさを感じずにはいられない心理や問題を「非モテ」の観点から解き明かした力作。読んでもモテようにはなりません。それでも悩める全ての非モテ男性に読んでほしい1冊です。

中川博嗣／mozoワンダーシティ店

ノンフィクション

『大人も知らない? ふしぎ現象事典』

「ふしぎ現象」研究会／編 ヨシタケシンスケ／イラスト
マイクログマガジン社 1,100円

そういうことあるよな～とは思っても、なぜだろう? とは思わず過ぎていました。どれもふしぎ現象なので、なるほど! というかワクワクしながら読み進めました。

石田美帆／西武渋谷店

小説

『兇人邸の殺人』

今村昌弘
東京創元社 1,870円

読了後胸いっぱい。遊園地の音楽が読み進めるごとに不気味で、登場人物の諸々がわかるにつれて胸が苦しくなる。今村昌弘の掌で転がされまくること間違いなし。

飯田稚菜／梅田本店

『情報を正しく選択するための**認知バイアス事典**』

世界と自分の見え方を変える「60の心のクセ」のトリセツ』

情報文化研究所／著 高橋 昌一郎／監修

フォレスト出版 1,980円

「真実」はいとも簡単にゆがめられる。自身に都合のいいように。ネットで膨大な情報があふれる今の時代だからこそ読んでほしい1冊。

田中歩／本町店

『**批評の教室** チョウのように読み、ハチのように書く』

北村紗衣

筑摩書房 902円

SNSや動画サイトで誰もが簡単に作品批評できてしまう時代。この本は作品を批評する際の切り口のヒントを丁寧に教えてくれる教科書です。その素人批評（黒歴史）を投稿してしまう前に、一回この本読んで考えてみませんか？

土居沙季／川西店

『**赤い魚の夫婦**』

グアダルーペ・ネットル 訳:宇野和美

現代書館 2,200円

2021年海外文学のダークホース。日々の暮らしの中にある怖ろしさとしみの描き方が絶妙で、貪るように読んだ。全力でお勧め致します。

池田匡隆／ゆめタウン下松店

『**ジャパニメーションの成熟と喪失** 宮崎駿とその子どもたち』

杉田俊介

大月書店 1,980円

「よき観客」であるとはどういうことか。アニメ好きにも批評好きにもぜひ手に取ってほしい1冊。

大藪宏一／ゆめタウン徳島店

『**カナカナ**』

西森博之

小学館 各660円

人の心が読めてしまう少女カナカと、遠戚でひよんなことから養うことになった元ヤン(?)のマサ。2人が出会って人生大転換! って訳ではないけど、周りの人たちと関わりながらゆる〜りと流れていく作品感が大好きです。

上野泰儀／福岡本店

『**東京藝大ものがたり**』

あららぎ菜名

飛鳥新社 1,200円

奇をてらわない、ほのぼのとした絵柄からは想像できなかった大青春ノンフィクションコミックエッセイ。美術・芸術に興味のある人にぜひ読んでいただきたい。かなり読み応えのある一冊です。勇気をもらえて泣けます。

星野絵美／アミュプラザみやざき店

『**お前、タヌキにならねーか?**』

奈川トモ

一迅社 各770円

人間社会に疲れ切ってしまったとき、ページをめくってみてください。タヌキ達があなたの心にそっと寄り添ってくれるはずです。クスッと笑えて、泣けて、ページを閉じたら心が穏やかになれる。そんな一冊です。

中野香菜恵／アミュプラザみやざき店

『**明日から使えるトキメキフラグ図鑑**』

茶んた トキメキフラグ委員会

宝島社 1,100円

その斬新さで全米を震撼させた(はずの)『明日から使える死亡フラグ図鑑』に、待望の続編が登場。今度は「トキメキ」がテーマ。なんだか映画で良く見るモテ(?)仕草が満載です。私はこの本を読んでから、傷口を焼くためのライターを持ち歩くようになりました。

米本教助／学校教育ICT推進センター

<キノブス! 2022選考委員会>

傅野雪見 札幌本店	池田匡隆 ゆめタウン下松店
小野里由美子 前橋店	大藪宏一 ゆめタウン徳島店
石井温己 流山おおたかの森店	上野泰儀 福岡本店
臼井沙輝子 新宿本店	星野絵美 アミュプラザみやざき店
石田美帆 西武渋谷店	中野香菜恵 アミュプラザみやざき店
田中沙季 小田急町田店	米本教助 学校教育ICT推進センター
千葉拓 ららぽーと横浜店	
中川博嗣 mozoワンダーシティ店	【事務局】
飯田稚菜 梅田本店	佐貫聡美 和書販売促進部
田中歩 本町店	神谷舞 ブランド事業推進部
土居沙季 川西店	碓谷大地 ブランド事業推進部



人形劇団ブークの招聘で来日したガネットさん(2018年8月)

「エルマーの物語を書いたのは、私ではないの。私の中の子どもが書いたの」と、『エルマーのぼうけん』の作者、ルース・S・ガネットさんは言いました。子どものときの気持ちを思い出して、やってみたかったこと、がまんしていたことを、エルマー少年にやってもらったのだそうです。だからエルマーがリュックにつめたのは、ガネットさんが子どものころに身のまわりにあったものばかり。今でも家の中を探せば手に入るような品物です。これなら読者の子どもたちも、いっしょに冒険に出られそうでわくわくしますね。

7人の娘を育てたガネットさんは、子どもはいつだって親の目の届かないところへ行きたがるものだと思います。それは自立心が芽生えてきている証拠で、上手に見守ってあげるのが

大事、と。けれど今は、親の目をくぐってどこかへ行くのが難しい時代になってきました。そんなとき、『エルマーのぼうけん』は、「ひとりでやりたい!」と思う子どものきもちに答えてくれます。親の力を一切借りず、工夫を凝らして困難に立ち向かっていくエルマーは、子どもたちの永遠のあこがれなのではないでしょうか。

家族を大切にしているガネットさんは、エルマーとりゅうが冒険を終えて無事に家族のもとへ帰るまで、お話を書こうと決めていました。それで『エルマーとりゅう』『エルマーと16匹きのりゅう』へと、物語は続いたのです。読者の子どもたちも、心行くまで冒険を楽しみ、エルマーとりゅうが家族のもとへ帰るのを見届けて、満足して本を閉じることでしょ。エルマーが世界中でロングセラーを続けている秘密は、こんなところにもあるのかもしれませんが。日本でもすでに3世代にわたる「子どもたち」が、この本を読んできました。今の子どもも昔の子どもも大好きな本。

「特別企画 キノバス!キッズ」の第1位に『エルマーのぼうけん』が選ばれたことは、作者にとっても子どもたちにとっても、たいへん幸せなことだと思います。

前沢明枝 まえざわ あきえ

翻訳家。早稲田大学・津田塾大学講師。ウェスタン・ミシガン大学で英米児童文学、ミシガン大学大学院で言語学を学ぶ。訳書に『野生のロボット』（福音館書店）『ぼくだつてとべるんだ』（ひさかたチャイルド）など。

前沢明枝さん 特別寄稿

『エルマーのぼうけん』をかいた女性

ルース・S・ガネット『著者』



特別企画

いつまでも残しておきたい、**児童書・絵本ベスト10**
読み継がれてほしい

キノベス! キッズ

私が抱きしめた一冊

「キノベス!キッズ 私が抱きしめた一冊」は、いつまでも残しておきたい、読み継がれてほしい、とっておきの児童書・絵本を選ぶ特別企画です。

こどもの頃、抱きしめた絵本。わくわくしながらページをめくった児童書。成長してから出会った一冊。現在流通している児童書・絵本を対象に、19名の選考委員が全社から集まった応募コメントを熟読し、オールタイムベスト10を決定しました。店頭で、ぜひお手にとってご覧ください。



第1位

海外児童書

『エルマーのぼうけん』

作:ルース・スタイルス・ガネット
絵:ルース・クリスマン・ガネット
訳:渡辺茂男

福音館書店 1,320円



本を読む楽しさを知った本ってなんだっけ? と思った時に真っ先に思い浮かんだ本。あのキラキラした、わくわく感。輪ゴムとガムと歯ブラシで危機を乗り越えるなんてすごくない?!

久穴保香織/仙台店

子どもの時にこの本を読んで冒険に憧れました。困った人を助けるといふ気持ち、一人で立ち向かう勇氣、ピンチを切り抜ける知恵、生きていくうえで大切なことをこの本は教えてくれます。低学年でぜひ読んで欲しい本です。

福島伸男/アミュープラザおおいた店

かわいそうなりゅうの話聞きみかん島に行くことにしたエルマー。リュックに詰めたものが全て適材適所で使われていくのがジグソーパズルのピースをはめていくようで気持ちいい! こんな冒険がしたいと憧れた作品です。

小島奈津子/湘南営業部

知恵と勇氣と優しさを備えたエルマーと一緒に冒険をするうちに、空想する力が育って物語に息が吹き込まれ、自分自身の頭の中の世界が大きく広がります。

四井志郎/新宿本店

ぼうつきキャンデーにチューインガム、ナイフ、虫めがね、輪ゴム……、エルマーのリュックのなかみを聞くだけでわくわくしていた幼児期の思い出の本。今読んでもあそこまでわくわくしないと思います。これから読むこどもたちがうらやましい。

粕谷育美/大阪第一営業部

こっそりと船に乗り、りゅう達を助けに行くエルマーの旅に、いつもわくわくが止まりませんでした。登場する個性的な動物や不思議な食べ物の魅力が魅力的で、斬新なアイデアでピンチを切り抜けていく面白さも印象に残っています。

新堂初海/コーポレート営業部

★ 第2位

海外児童書

『モモ』

作:ミヒヤエル・エンデ 訳:大島かおり

岩波書店 880円

大学生の頃初めて読んだ『モモ』。真っ先に思ったのは「子供の頃に読みたかった!」でした。時間という抽象的概念をファンタジーに変化させるというのに目を見張りましたし、同時に大人になると純粋にこの本を「物語として楽しむ」ことが出来なくなると思いました。だから今、子供の間に読んで欲しい!

飯田稚菜/梅田本店

子供の頃に読んでいても読んでいなくても大人になってからこそ読んでもらいたい! 「時間のなさ=心の余裕のなさ」というシンプルだけど大事なことを思い出させてくれます。時間どろぼうは実は自分の中にあるのではないかしら。

三瓶直美/入間丸広店

できるだけ多くの仕事を効率的に「こなせるようになること」がスキルアップだと思ってきた。スケジュールをぎっちり埋め、いつも時間に追われ、大事な人に逢いに行く時間を先延ばしするような生活だった。

が、この本を読んで人生が変わった。何度も読み返したい。

中村紀子/DVD・CD販売促進部

★ 第3位

国内絵本

『どうぞのいす』

作:香山美子 絵:柿本幸造

ひさかたチャイルド 1,100円

発行から40年になる定番名作絵本です。「どうぞ」は素敵な合言葉、ふと読むといつも温かい気持ちになります。いつでもいつまでも読み返していたい。

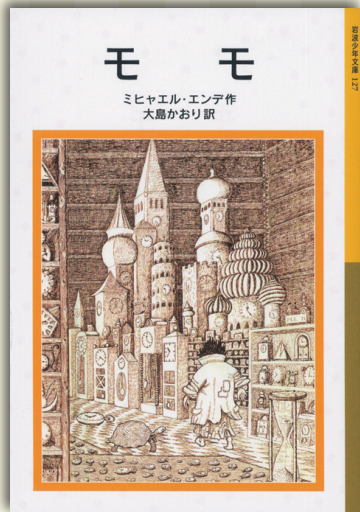
跡邊千香子/玉川高島屋店

やさしさがぎゅつと詰まった、本当に素敵な絵本です。すべての子どもたちだけでなく、いつの間にか大人になっていた皆さんにもぜひおすすめしたい一冊。誰もが持って生まれたあたたかさが、目を覚ますはずです。

大津山祐季/小田急町田店

「どうぞのいす」は ありがとうの気持ちを添えて 次々と登場するおともだちのやわらかい表情にも心が癒されますね。

星野和恵/川越店



児童書 文庫 101





第4位

海外絵本

『ふたりはともだち』

作・絵:アーノルド・ローベル

訳:三木卓

文化出版局 1,045円

かえるくんは、がまくんが春と一緒にいてくれないと寂しいし、がまくんは、かえるくんが元気がないと寂しい。お互いを想い合う方法に違いはあれど、二人一緒にすごす毎日が楽しい。ともだちって大切。
瓜生春子／川越店



第5位

国内絵本

『こんとあき』

作・絵:林明子

福音館書店 1,430円

あきちゃんとこの愛と信頼に満ちた関係、林明子さんの可愛くあたたかい絵、すべてが優しく、ぬいぐるみ大好きな私の心を今も捉えて離しません。こんが段々喋れなくなってしまう後半は、胸がぎゅっと切くなります。大好きで大切な1冊です。
東奈々恵／梅田本店



第6位

国内絵本

『ぐりとぐら』

作:中川李枝子

絵:大村百合子

福音館書店 990円

あのきいろいかすてらを食べたい! 卵のからの車に乗りたい! もちろん本気で思っていました。わが子に読み聞かせていると、大きな卵が落ちていないかドキドキして探し歩いた記憶が鮮明に蘇ります。同じドキドキをこの先もたくさんのお子さんにも味わってもらいたいのです。
祖父江由紀／徳島店



第7位

国内児童書

『二分間の冒険』

作:岡田淳

絵:太田大八

借成社 1,540円

竜とたたかう世界へ行った少年の物語。私にとって、頁をめくるのもどかしいほどの楽しい読書体験は本書が初めてでした。竜とのたたかいなんて、ゲームの中でもできる? いえいえ、ゲームより楽しい時間を過ごせると保証します。本書との出会いは、特別な思い出になるはず! 河本絵美／梅田本店



第8位

海外児童書

『はてしない物語』

作:ミヒヤエル・エンデ

訳:上田真而子、佐藤真理子

岩波書店 3,146円

想像することの可能性、本を読むことの楽しさ。児童書の魅力がたっぷりつまった名作です。装丁の美しさは随一。また、その装丁の意味に気付いた時、本書は読者にとって特別な一冊になるはず。最後のページで終わると思われた物語は、本当はひたすら続いていったんですね。その世界観に圧倒されます!
河本絵美／梅田本店



第9位

国内絵本

『あんなにあんなに』

作・絵:ヨシタケシンスケ

ポプラ社 1,320円

母になり、子の成長はこの上なくうれしく、同時にちよっぴりさびしいのだと知った。そして、自分も同じように見守られてきたのだと気づいた。一人のできる事が増えるたび、子は少しずつ世界を広げ、遠くに歩いていく。ヨシタケシンスケさんの絵本はその切なさや素直さを絶妙な優しさで切り取っている。
門田安奈／eコマース事業部



第10位

海外絵本

『ぼくを探しに』

作・絵:シェル・シルヴァスタイン

訳:倉橋由美子

講談社 1,650円

大人になってからわかる、次の世代に伝えたいこと。だけどそれはことばにならない。しかもそれは子どものうちに伝える必要がある。子どものうちに伝えられたら、大人になってからわかる。そういう内容の絵本。大人は子どものうちに読んだというプレゼントを与えるべき。
生武正基／新宿本店

選考委員が選ぶ！私が抱きしめた一冊

ベスト10を選んだ選考委員に、キノバス!キッズには惜しくもランク外になってしまったものの個人的にはとてもオススメしたい1冊を挙げてもらいました。

海外絵本

『どんなにきみがすきだかあててごらん』

作:サム・マクブラットニイ 絵:アニタ・ジェラム 訳:小川仁央
評論社 1,430円

チビウサギがどれだけデカウサギを好きかを伝えようとして
いる姿にほっこりします。 工藤由起子/札幌本店

海外絵本

『もしかしたら maybe』

作:コビ・ヤマダ 絵:ガブリエラ・パロウチ 訳:前田まゆみ
パイインターナショナル 1,650円

急に窮屈な時代になったとき、この本に巡り合いました。
どんな現状でも少しの可能性を諦めちゃいけない。やさしく
背中を押してくれる絵本です。 室和末/仙台店

国内絵本

『たぶの里』

作:絵:藤岡拓太郎
ナナログ社 1,320円

気付けば、ただ次のタブを無心で楽しみにページをめくっ
ている自分がいます。リズムも楽しい大人から子供まで楽
しめる癒し絵本です。 瓜生春子/川越店

子どもから大人まで、ツボに入ればゲラゲラ笑えること聞
きなし! 登場するキャラクターたちの微妙な表情がクセ
になります。大好きな1冊。 新宮修子/新宿本店

海外絵本

『どこいったん』

作:絵:ジョン・クラッセン 訳:長谷川義史
クレヨンハウス 1,870円

「どこいったん」その一言が最後の最後までドキドキさせま
す。大きなクマが大事な赤い帽子を探しに色々な動物たち
に聞いて回るお話。あらすじだけ聞くと、とってもかわい
い。関西弁の翻訳がとってもほっこり。……本当に?

石川陽子/流山おおたかの森店

海外絵本

『ゆうびんやのくまさん』

作:絵:フィービー・ウォージントン、セルビ・ウォージントン 訳:まさきりこ
福音館書店 1,100円

いろんな仕事をしてはたらくくまさん。くまさんシリーズの
ゆうびん屋さんです。クリスマスにもくまさんははたらきま

す。黙々と、淡々と。そして、ゆっくり家で休めます。そ
ういうものに私もなりたいたい……。

跡邊千香子/玉川高島屋店

国内絵本

『10かいだてのおひめさまのおしろ』

作:絵:のはな はるか
PHP研究所 1,540円

「子どもの頃にほしかった……!!」と本気でうらやましくなっ
た絵本です。好きなものを選ぶ楽しさを、コーディネートす
る楽しさを、ひとりでも、家族や友人みんなとでも楽しめま
す♪ かわいいがたっぷり詰まった一冊。

野澤真由/笹塚店

国内絵本

『きんぎょがにげた』

作:絵:五味太郎
福音館書店 990円

シンプルなストーリーと鮮やかなイラストに目を奪われまし
た。娘があかちゃんだったころに、いっしょに指差ししなが
ら読み聞かせた幸せな思い出込みで大切な1冊です。

葉石麻実/国分寺店

国内児童書

『どろぼうのどろぼん』

作:斉藤倫 絵:牡丹靖佳
福音館書店 1,650円

詩人が書き上げた小説やいかに? と手に取って度肝を抜
かれました。リズム溢れる言葉で紡がれる少し不思議な物
語。読んでいる間、まるで海の上を体一つで漂うような
感覚になる浮遊感。そして読後に訪れる悲しみを含む幸福
感。私はこの作品を語るの言葉を獲得出来なままです。

花田優子/横浜店

国内絵本

『あつまれ! 全日本ごとうちグルメさん』

作:ふくべあきひろ 絵:おおのこうへい
プロズ新社 1,650円

日本各地のごとうちグルメが集まって、総会を開きます!
それぞれの県方言で名産や地形も教えてくれます。とにかく
絵が細かいところまで考えられていて、何度見ても新しい
発見があります。読んだお子さんはみんな大好きになる
のです(実証済み)! もちろん物産展やグルメ番組が何倍
も面白くなります♪

松田ありか/金沢大和店

国内絵本

『よるくま』

作・絵:酒井駒子

借成社 1,100円

くまの子の登場シーンの可愛さに心を鷲掴みされました。ほっこりした優しいお話に、読後幸せな気持ちになれる1冊。
笹倉宏美/梅田本店

国内絵本

『おふろだいすき』

作:松岡享子 絵:林明子

福音館書店 1,430円

お風呂に入る喜びや楽しさが絵本から溢れ出て心もぼかか。無限に広がる湯船と林明子ワールド、仕上げはお母さんの持つふわふわバスタオル。極上の温もりが詰まった1冊にみんな「おふろだいすき!」と叫ばずにはいられません。
中村英司/京橋店

国内絵本

『たべるのだあれ?』

作・絵:すぎはらけいたろう

東京書店 1,408円

どうぶつたちのモグモグたべる表情がなんともおいしそう!音まで聞こえてきそうです。私のイチオシ絵本です。
寺本律子/天王寺ミオ店

国内絵本

『ピッキーとポッキー』

作:嵐山光三郎 絵:安西水丸

福音館書店 990円

絵本の中でおでかけをしてみませんか? ピッキーとポッキーともぐらのふうちゃんはお花見に出かけます。途中で登場するお弁当や様々な風景にとても心が躍り、春にぴったりで誰もがにっこり笑顔になる作品です。実は最後にはもっと楽しいことが……。
北野実香/泉北店

国内絵本

『おくりもの』

作・絵:豊福まきこ

BL出版 1,430円

自分の嫌いなところが、実はどこかで活かせるのかもしれない……。そんなメッセージが優しいイラストと暖かいストーリーで、心にじんわり伝わってくる。友だちにケガをさせてしまう、自分の針が嫌いなはりねずみくんの素敵な「おくりもの」のお話。
横山彩香/エブリイ津高店

国内絵本

『ぐるんぱのようちえん』

作:西内ミナミ 絵:堀内誠一

福音館書店 990円

おおきなビスケットにあこがれるだけだった子どものころ。いま読み返すといろんなメッセージが盛り込まれていて泣きそうになります。
大藪宏一/ゆめタウン徳島店

国内絵本

『だるまんが』

作・絵:かがくい ひろし

ブロンズ新社 935円

新刊として入荷した日の衝撃と感動は今でも忘れられない。児童書担当をやっている本当に良かったと頼りしした。その日以降友人知人に子どもが生まれたと聞いてはプレゼントしてまわり赤ちゃんの反応がグントツで良いと皆に喜ばれた。こんなにも大人からも子どもからも愛される絵本は他にはない。
竹下心/ゆめタウン博多店

国内絵本

『だいじょうぶ だいじょうぶ』

作・絵:いとうひろし

講談社 1,100円

ぼくの不安を消してくれるおじいちゃんの魔法の言葉「だいじょうぶ だいじょうぶ」。小さい頃にこの絵本を読んで、おじいちゃんの優しさに目が潤んだのを覚えています。大人になった今でも心に残る、私の大切な1冊です。
吉弘空瑠美/久留米店

国内絵本

『だるまちゃんとてんぐちゃん』

作・絵:加古里子

福音館書店 990円

「おともだちのてんぐちゃんが持っているものと似たものが欲しい!」とうたえるだるまちゃんの要望に、選びきれないくらいの選択肢を出して応えるお父さんだが、だるまちゃんは結局、自分で工夫して自分の欲しいものを調達する。その繰り返しに愛にあふれ、楽しく面白いのです。かこ先生、大好き!
中村紀子/DVD・CD販売促進部

<特別企画キノベスキッズ選考委員会>

工藤由起子 札幌本店	寺本律子 天王寺ミオ店
室和未 仙台店	北野実香 泉北店
瓜生春子 川越店	横山彩香 エブリイ津高店
石川陽子 流山おおたかの森店	大藪宏一 ゆめタウン徳島店
新宮修子 新宿本店	竹下心 ゆめタウン博多店
跡邊千香子 玉川高島屋店	吉弘空瑠美 久留米店
野澤真由 笹塚店	中村紀子 DVD・CD販売促進部
葉石麻実 国分寺店	
花田優子 横浜店	[事務局]
松田ありか 金沢大和店	村山康隆 和書販売促進部
笹倉宏美 梅田本店	原田千明 ブランド事業推進部
中村英司 京橋店	証谷大地 ブランド事業推進部

2022

紀伊國屋 じんぶん大賞

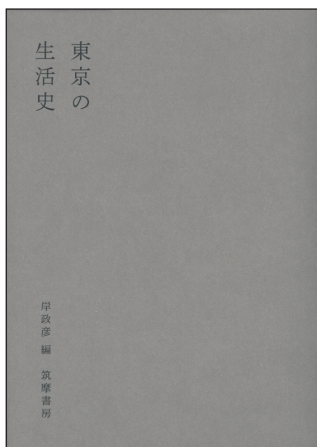
読者と選ぶ人文書ベスト30

「大賞」

『東京の生活史』

岸政彦 編

(筑摩書房)



2位 『愛と差別と友情と LGBTQ+』

— 言葉で闘うアメリカの記録と内在する私たちの正体 —
北丸雄二 (人々舎)



3位 『言語学バーリ・トゥード』

— Round 1 Allは「絶対に押すなよ」を理解できるか —
川添愛 (東京大学出版会)

4位 『誰がために医師はいる — クスリとヒトの現代論』 松本俊彦 (みすず書房)

5位 『<責任>の生成 — 中動態と当事者研究』 國分功一郎/熊谷晋一郎 (新曜社)

6位 『実力も運のうち — 能力主義は正義か?』 マイケル・サンデル/鬼澤忍 (早川書房)

7位 『アメリカンビレッジの夜 — 基地の町・沖縄に生きる女たち』 アケミ・ジョンソン/真田由美子 (紀伊國屋書店)

8位 『中国料理の世界史 — 美食のナショナリズムをこえて』 岩間一弘 (慶應義塾大学出版会)

9位 『くらしのアナキズム』 松村圭一郎 (ミシマ社)

10位 『ケアの倫理とエンパワメント』 小川公代 (講談社)



この『東京の生活史』プロジェクトに参加していただいた語り手の皆さま、聞き手の皆さまに、心から感謝したいと思います。40年前から作りたいた願っていた本が、ようやくできました。皆さまのおかげです。

この分厚い本を最初から最後まで読んでも、「東京」のことは何もわかりません。でも、この本のどのページを開いても、ここには「人びと」が生きているんだな、ということをしみじみと感じます。ここに並んだ150人の人生は、どれもまったく違うものでありながら、みんなどこか似ています。みんな違うということ、そしてみんな似ているということ。正反対のことですが、そんなことを強く感じる本になりました。

そしてそれはたぶん、この世界の構造そのものであると思います。

『断片的なものの社会学』以来、2回めのじんぶん大賞になります。このたびの『東京の生活史』の受賞を機に、生活史モノグラフの面白さが広まれば、こんなうれしいことはありません。ほんとうにありがとうございます。

大賞『東京の生活史』

岸政彦さん 特別寄稿



岸政彦 きしまさひこ

1967年生まれ。社会学者・作家。立命館大学教授。主な著作に『同化と他者化』(ナカニシヤ出版)、『断片的なものの社会学』(朝日出版社、紀伊國屋じんぶん大賞2016)、『リアン』(新潮社、第38回織田作之助賞)など。

このたびは、すばらしい賞をいただき、どうもありがとうございます。編者の岸政彦さん、150人の聞き手さんと150人の語り手さん、みんなでいただいた賞だと思っています。

岸さんは子どものころから、こうした、たくさんの語りがただ並べられただけの本をつくりたいと思っていたそうです。著者のやりたいことを実現するために伴走するという、編集者の仕事の根幹をあらためて教えてくれる、幸せな一冊でした。

書店は、言葉の場所です。言葉が壊されていくような日々にあって、それを食い止めるべく書店員の方々は奮闘されています。そのことは、『東京の生活史』の企画を進めるうえで大きな励みになりました。

最後に、投票いただいた方にも、心からお礼を申し上げます。この本の根底にあるのは、読者の方や、読者へ本を届けてくださる出版関係者の方への信頼です。ほんとうに、どうもありがとうございます。

筑摩書房第一編集部

柴山浩紀

2022

紀伊國屋 じんぶん大賞

読者と選ぶ人文書ベスト30

大賞

『東京の生活史』

岸政彦(編)

筑摩書房

4620円



じんぶんくん

東京の 生活史

岸政彦 編 筑摩書房

「東京」と題された楽曲はとても多い。それはなぜだろうか。都市としてそこに生活するときに生まれ、流れてくる音楽があるのではないだろうか。一般公募された150名の聞き手による東京の150名の語り手の生活史をまとめた本著。どの話からでもよい。ご一読あれば、そこにはそれぞれの東京が詰まっている。そしてそれぞれの音楽が流れているのだ。東京の暮らしを感じるための楽しいアプローチ。

伊藤穂／名古屋空港店

売り場で異彩を放つこの本は、東京に縁のある150人が辿った150通りの人生を、12000ページを超える一冊に纏めたものだ。聞き手と語り手の関係性も様々だが、余計な説明やレットテルは一切ない。一つの人生を荒々しく切り取った集合体のようなこの一冊に、並々ならぬ気迫を感じずにはいられない。

④花田葉月

言わずと知れた「鈍器本」ですが、間違いなく今年の最推しの一冊です。語り手たちの人生を噛み締め読み進めるうちに、「街」とは形容できない「東京」が立ち現れていく様子は圧巻の一言。戯曲を読んでいる気持ちになりました。

④滋野峻也

東京という生活空間を、そこに生きる人の語りから書いた快作。あえて全体のストーリーを作らず、読み手が東京という空間を思い描く挑戦的な構成をとっているのが素晴らしい。日本の生活史研究の歴史に確実に残る一冊だと思います。

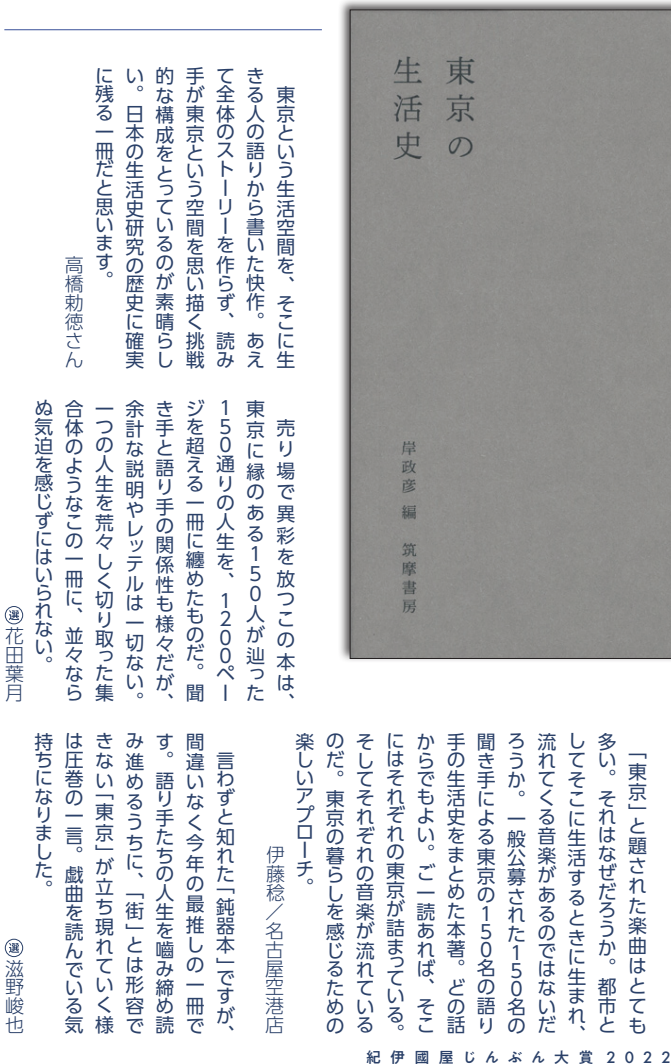
高橋勲徳さん

価格表記は全て税込です。

「紀伊國屋じんぶん大賞」は、おかげさまで12回目を迎え、今回も読者の皆さまから数多くの投票をいただきました。誠にありがとうございます。投票には紀伊國屋書店社内の選考委員、社内有志も参加いたしました。投票結果を厳正に集計し、ここに「2021年の人文書ベスト30」を発表いたします。

*2020年12月～2021年11月に刊行された人文書を対象とし、2021年11月1日～11月30日の期間に読者の皆さまからアンケートを募りました。当企画における「人文書」とは、「哲学・思想・心理・宗教・歴史・社会・教育学・批評・評論」のジャンルに該当する書籍(文庫・新書含む)としております。

*推薦コメントの執筆者名は、一般応募の方は「さん」で統一させていたいただき、選考委員は④、紀伊國屋書店一般スタッフは所属部署を併記しています。



第2位

『愛と差別と友情とLGBTQ+』

言葉で闘うアメリカの記録と内在する私たちの正体

愛と差別と友情と LGBTQ+



言葉で闘うアメリカの記録と内在する私たちの正体

北丸雄二

LOVE, DISCRIMINATION, FRIENDSHIP and LGBTQ+ The History of the Battles for Our Truth and the Search for Human Rights. by YUJI KITAMARU

北丸雄二

人々舎

28600円



この本を読んでいかにアメリカが言葉と行動で闘い切り拓いてきたのか、いかに日本はそれらですす飛はしてきてしまっ

ジャーナリストとしての徹底した取材に裏打ちされた膨大な事件や出来事への深く鋭い視点で展開された。今の時代への著者の思いが圧巻。自叙

たのかを思い知りました。「私」のことを公にした。問題として捉え全力で解決しようとするアメリカの姿勢とパワーの凄さに圧倒されます。著者・

伝がちりばめられていて内容はハードなのに一気に読みました。今まで漠然と思っていたLGBTQ+

北丸氏の経験や想いが沢山織り込まれているのも読み応えがあり、日本が「LGBTQ+」に対する形だけの「理解」を脱するのはいつになるのか、でも確実に変化は起こっている

の活動に対する「何故？」が本場に丁寧に答えられていて目から鱗です。ぜひ読んで欲しい一冊です。

山織り込まれているのも読み応えがあり、日本が「LGBTQ+」に対する形だけの「理解」を脱するのはいつになるのか、でも確実に変化は起こっている

前橋ともせん

●十井一輝

片桐千晶さん

第3位

『言語学バーリトワード』

Round 1 Aは「絶対に押すなよ」を理解できるか

言語学バーリトワード

川添愛

東京大学出版会

1870円



なんといつてもこの本の魅力はまさに言葉、文章。「面白い」文章というは狙って書けるものではない！川添さんの文章は笑いをガチで狙いつつ、その潔さがとても気持ちよく、素で笑えてしまうんです。なおかつ世の中に溢れている言葉に対して「あれ」と思うきっかけをくれる、言語学をちょっと身近に感じることが出来る私の一押し本です。

とにかく魅力的なこの文章を、表情ひとつ変えずに読み進めることは、きつと誰でもできないでしょう。読む場所は慎重に選ばなければなりません

が(公共交通機関などはもつての外!)、読み手は選びません。本書は言語学をより身近に感じることが出来る、れつきとした人文書だと思います!

電車の中で吹き出してしまったが、構うものか。スマホに夢中だ。言語学を志せばよかったと悔やむ気持ちと、知らなくて幸せだったのだと安堵する

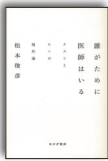
る気持ちがある。言語学がなぜ自然科学なのかの回答は、きつと続編で語られるのであろう。

●林下沙代

光地竹生さん

永井温子さん

『誰がために医師はいる クスリとヒトの現代論』



松本俊彦

みずす書房 2000円

薬物は絶対な悪であるとして、使用者への偏見や誤解の強い日本社会。しかし、その社会の在り方が、薬物依存症患者の孤立を深め、回復や社会復帰を妨げてしまう一因となると知り愕然とした。「心」の治療のためには、安心して「誰か」に依存できる社会の構築が必要であることを深く考えさせられた一冊。

（著）津畑優子

『責任の生成 中動態と当事者研究』



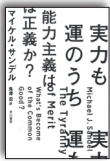
國分功一郎／熊谷晋一郎

新曜社 2200円

中動態と当事者研究というこれまで誰も触れなかった切り口から、「いつもそこにありながら誰も気に掛けなかった」問題を地上に引き張り上げた。一度それにくらびついたら、既存の問題群も別の光を帯びて見えてくるのが面白い。異分野の若き研究者同士の話のプロセスそのものが喜びを与えるという点でも希有な書。

白石正明さん

『実力も運のうち 能力主義は正義か？』



マイケル・サンデル／鬼澤忍訳

早川書房 2420円

いまや個人の夢を意味するアメリカン・ドリームもかつては誰にとっても人生がやりよいものであることを願った言葉であり、他人の労働への敬意をもつこと、自分の成功も運によるものが多いためとなく謙虚であること。そんな結論にたどりつくまでのサンデル節を楽しむ。

中山修一さん

『アメリカン・レレッジの夜 基地の町・沖縄に生きる女たち』



アケミ・ジョンソン／真田美子訳

紀伊國屋書店 2100円

数多の類書があるテーマではあるが、著者自身の来歴によりそれらとは一線を画している。問題の大きさと根の深さを、ノンフィクション的手法で描くことでリーダーリティを高め、読み手の理解を促しているだけでなく、小説のように体温を感じさせる文体で記しているのは、著者の意図を汲み取った訳者の手腕によるところも大きいはずだ。

伊藤弘さん

『中国料理の世界史 美食のナショナルイズムをこえて』



岩間一弘

慶應義塾大学出版会 2750円

国家からではなく民間から世界中へ広がった中国料理。各国に根付いた中国料理にまつわる事実や俗説の真偽を解き明かす。もの凄いく情報量に中国料理の偉大さと著者の努力が頭が下がる。「食」「中国」「歴史」が一つでも好きならば一読の価値あり（ただし500ページ超。どれも大好物な自分は読むことで中国料理を堪能させてもらった。）

（著）生武正基

『くらしのアナキズム』



松村圭一郎

三笠社 1000円

「アナキズム」と聞くと、遠い世界のことかと感じてしまいますが、松村先生が書いているのは、私たちのくらしの身近な話です。「わたし」がくらしの中で生きていくのに、もしかしらばどうと暮らしてやってくれませんか？

岡田十聖さん

『ケアの倫理とエンパワメント』



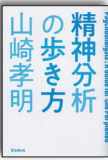
小川公代

講談社 1650円

ケアという概念を通して文学作品の再解釈を試み、新たな作品像・作者像を立ち上げることに成功している。社会が複雑化し、多様な価値観が浮き彫りになりつつある今こそ、読まれるべき一冊である。

（著）田伏也寸志

『精神分析の歩き方』



山崎孝明

金剛出版 3740円

堅苦しい本が多い業界ですが、読みやすいタッチで若者が触れやすく、今まであったぼんやりとした困りごとを見直すことができます。また、初心者の助け本かと思いきや、今後のことや自分の考えや立ち位置について考えさせられ、今後の心理業界には必要な本のように思いました。

舟崎瑠子さん

『論理的思考』の社会的構築



フランスの思考表現スタイルと言葉の教育

渡邊雅子

岩波書店 4620円

形式的論理学とも修辞学とも異なる（思考表現スタイル）という独自の論理的次元を確認し、論理的感性にどうつなぐべき感覚の在処が学校でのライティング教育にあると指摘する。仏のライティングスタイルの特異さを紹介しつつ、説得的な主張が具えるべき型を暗示してくれる。望ましい合意形成のプロセスに示唆を与えてくれる一冊。

（著）井村直道

第13位

『書き取りシステム18000・19000』



フーランド・キックラー／大鶴 一郎 石田雄 訳
インスクリプト・システム

独メディア学のアナキストキックラーの著書。没後十年にして待望の邦訳。約8000頁の「純器本」ながら、二つの世紀転換期を通して、文学や哲学の失われた黄金時代のシステム、現代心理学や視聴覚メディアによる「書く技術」の変容に迫る本書は、人文知からのメディア学の誕生の記念碑として、丹念な訳注とともに読んで時を忘れた。

◎ 野間健司

第14位

『働くことの人類学』



松村圭一郎／コロン野外学習センター
黒鳥社 2200円

一つの仕事にじっくり取り組む、将来のために我慢してがんばる……いまの日本社会でなんとなく当たり前になっっている価値観や考え方が、一方で、世界に目を向けてみれば、多様な働き方に出会う。なぜ働くのか、どんなふうに向くのか、それは生き方にもつながっていくことだあと読んで思う。ポッドキャスト版もあり。

◎ 柏谷育美／大阪第一営業部

第15位

『ヒッピーのはじまり』



ヘレン・S・ペリー／阿部大樹 訳
作品社 2070円

原書の刊行から50年以上経った翻訳であるが、時が経つほどかえってその意義はいや増し、「コロナ以後の時代」これ以上なく沿った内容だと感じさせられた。ヒッピーの固定的なイメージを覆し、多様性の認識をより一層深めるために最適な歴史ノンフィクション。

◎ 小山大樹

第16位

『心はどこへ消えた?』



東畑開人
文藝春秋 1650円

臨床心理士としての著者の経験と独特のユーモアから紡ぎだされる物語は、人間模様を鮮明に映し出し、様々な感情に入りしつ、美しいあるいは皮肉なオチで楽しませてくれる。そして印象的なエピソードが、著者と登場人物との傷痕とともに深く心に残る。

◎ 林愛希生／札幌本店

第17位

『犬神家の戸籍』



遠藤正敬
青土社 1080円

探偵小説史上に燦然と輝く傑作にして、市川崑監督、石坂浩二主演の映画も遍く知られる『犬神家の一族』の血で血を洗う凄惨な物語とその醍醐味を、「戸籍」を視座として読み解く怪作にして快書。ミステリとしての魅力とともに、「血」の家といった近代日本の宿痾もあぶり出されることになるだろう。

◎ 松野享一

第18位

『僕たちはどう生きるか』



森田真生
集英社 1760円

言葉と思考のエロジカルな断片

四季を通して、命あるものの営みをつくる。そして日々の暮らしを、点ではなく線で捉える。持続可能な社会を次世代へ繋ぐためのエロジカルな実践書。

◎ 池田匡隆

第19位

『私はいま自由なの?』



杉本 浩一 著
柏書房 2420円

各種指標から「世界一 男女平等な国」と言われ、手厚い社会保障制度もあり、日本では理想郷のように描かれることもあるノルウェーだが、その実態は? 本書で浮き彫りになるのは、家事・育児といった「ケア労働」の多くを女性が担う傾向は不変のまま、ワークフェアの考え方に基づき、フルタイム労働のみを絶対善とするシステムのなかで疲弊する女性たちの姿。制度的な男女平等の先にある「幸せとは何か?」を考える契機となる一冊。

◎ 花田葉月

第20位

『プロテストしてなに?』



アリス・グリナー／ハースト・スミス 櫻野桃代 訳
青幻舎インターナショナル 2200円

どうせ世界は変えられない……そんな暗い気持ち吹き飛ばしてくれる、しかも多様な抵抗の物語。デモやストライキだけじゃない、生活に密着した抵抗の可能性に、勇気と希望をもらいました。

◎ 高部知史

第21位

『言葉をもみほぐす』



赤坂憲雄／藤原辰史
岩波書店 1980円

歴史学・民俗学の領域を越えて交わされる数々の言葉。往復書簡という形に、よって一人の言葉のあいだには時間がかかれており、本という形態を取っていないが、本当に手紙を目にしているかのような感覚がありました。この往復書簡の中には私たちが失っているものが無数に存在し、綴られた言葉がそれ以上の言葉を生きてくる、まさに言葉の力というものを感ぜられる一冊です。

◎ 東一町順也

第22位

『災厄と性愛 闘争と統治』

小泉義之

小泉義之政治論集成I

小泉義之政治論集成II

月曜社 2016年6月



哲学者である著者がこれまで「災厄と性愛」「闘争と統治」の二冊にまとめて収録。この四つの言葉に集約される諸問題について、読む者を戸惑わせるほどの批判的な論者が並び、読んでも何も安心できないという意味で人を思考に促す。

藤本浩介

第23位

『親鸞とマルクス主義』

近藤俊太郎

法蔵館 2015年5月



タイトルだけでしげれる。それぞれの思想がいかに近現代日本に抜き差しならぬ影響を与えてきたかが明らかになる。それについても、上原専祿(熱心な日蓮宗徒である)の存在は巨大であったと改めて敬服。

大藪宏一

第24位

『囚われのいじめ問題』

北澤毅/間山広朗

岩波書店 2017年7月



30年以上にわたる「いじめ問題」の画期となった「大津市いじめ自殺事件」に、後期フライングの問題が炸裂する。表題の「囚われ」と副題の「未完」の意味が明らかになったとき、読者の「いじめ観」は一変するに違いない。

松野恵一

第25位

『海賊共和国史』

1696-1721年

コリン・ウッドワード/大野晶子訳

パンローリング 41800円



このタイトルと、装のドクローマーク、この分厚さ(512ページ)。出会うと、しまったら手に取らずにいられない。一時は英国やスペインの海軍の勢力をも凌いだ海賊たちのやんちゃぶりに惹かれる。

森永達三

第26位

『平成史』

昨日の世界のすべて

文藝春秋 22000円



時間的・心理的な「近さ」だけが、平成という時代の見通しの悪さの要因なのだろうか。55年体制が崩れ、新たな風華やかな知能人と昭和の名残。サブカルチャーという地下水脈が社会と浸潤していく様。それらを分野横断的に語り直すことで、ようやく私たちは昨日の世界と向き合いつながることができる。

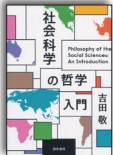
中島宏樹

第27位

『社会科学の哲学入門』

吉田敬

勁草書房 24200円



「社会」をどうとらえるか。この根源に「社会科学の哲学」として迫っていく。画期的テキスト。学生はもちろんのこと、社会観を鍛えるために広く読まれる価値のある一冊。

大藪宏一

第28位

『マザリング』

現代の母なる場所

中村佑子

集英社 24200円



無償の愛、自己犠牲といったイメージを彷彿とさせる「母性」という言葉。著者は、旧来のその定義を解体し、圧倒的に管理され暴力的なほどクリーンな都市と労働空間が広がるこの社会において、行き場のない、弱い身体を持つ者の居場所を考える。性別、年齢、子どもの有無にかかわらず、すべての人に読んでもらいたい一冊。

津畑優子

第29位

『水中の哲学者たち』

永井玲衣

晶文社 17600円



読んだ後に、しみじみとタイトルにある「水中」がびつたりなんだと気持ちよく思う。「わからない」人たちが、同じ海で立ち泳ぎしている感じがユーモラスで、誰もがそれぞれ、大変なことあるけど、笑っちゃうことも多くて、速く誰かではなく、縁した身近な人のことを大切にしたいと思う作用がある本でした。

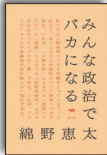
アガサ・クリスピン・フリードマン・ナドナドナさん

第30位

『みんな政治でバカになる』

綿野恵太

晶文社 18700円



人間の認知には特有のバグがある。これをイデオロギーの問題にすることで「みんな政治でバカになる」。我々は知識でバチを当てなければならぬ。話はそれからだ。この本は我々に議論のスタートラインを新しく引いてくれる。

那珂恵太さん

じんぶん大賞選考委員が選ぶ！選外この一冊

『妊娠・出産をめぐるスピリチュアリティ』

橋迫瑞穂
集英社 9/460円

「子宮系」胎内記憶「自然なお産」といった、妊娠・出産に関わるスピリチュアルなコンテンツとその受容を、批判的かつ内在的な視座から理解し、分析する、社会学のお手本というべき一冊。読みたくなれ、明ええキョン♡

松野亨一／学術和書部

妊娠・出産の場面で胎内記憶や自然なお産などスピリチュアルな言説が巷にあふれる今日の社会。抑圧されてきた女性の自由意志を尊重するフェミニズムはなぜ受け皿になっていないのか。これまで見落としてきた社会現象に光を当てくれる一冊。

井村直道／水戸営業所



『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション』

人種・ジェンダー・性的指向：

マイノリティに向けられる無意識の差別

デラド・ドゥ・マンヌー／マイノリティ・レシジョン研究会
明石書店 3,000円

マイクロアグレッションとははいたって普通な感覚・見方・意識からの言動が、実は他者を排除しようという可能性に行き当たった時、冷や汗が止まらなくなった。多様性を重視する現代社会において必読の一冊。日本社会について言及した訳者あともきも秀逸。

津畑優子／学術和書部

『哲学の25年 体系的な再構成』

池田辰男・岡崎秀二郎・若田健佑 訳
法政大学出版局 6,160円

哲学はカントが始めたヘーゲルが終わらせた？ 人たちの言い分では哲学の始まりと終わりに相当する1781-1806年の思考を追体験する、面白くて本格的な哲学書。下手に入門書を読むより、ドイツ観念論の生成発展のドラマが入ってくる。ゲイテやスピノザによる補助線も、哲学を越える人文的関心に広く訴える読みどころ。

野間健司／学術洋書部

『歓待する文学』

小野正嗣
NHK出版 2,090円

本作の著者である小野正嗣は、文学作品そのものを擬人化して「生まれた瞬間から誰かを歓待してきたまらぬのです」という。本作では国内外16編の文学作品と著者のあたたかいつながりが描かれており、そのもてなしは、読者である私たちへ開かれることで完成する。

花田葉月／デジタル情報営業部

『失われた時を求めて』への招待

吉川一義
岩波書店 9,080円

『失われた時を求めて』は20世紀文学の傑作と称される。しかし、通読するにはあまりに長く、難解でもある。そう躊躇う読者を、プルースト研究の泰斗が作品世界へ誘う。記憶や時間といったテーマを基調とし、社交界、ユダヤ、同性愛、サドマゾヒズムを作家が描いたのはなぜか。一人称の語り手を選び、比喩を多用する意図とは。『失われた時』という大海へ再び漕ぎ出すための、心強い羅針盤。

田伏也寸志／ECサービス部

『暮しのファシズム』

大塚英志
筑摩書房 1,980円

戦争は「新しい生活様式の顔をしてやってきました」。「口ナ禍で最も目にした言葉」「新しい生活様式」と銘打った様々なキャンペーンに対し、著者は戦時中との類似性を指摘します。わたしたちは無意識のうちに「国家総動員体制」を「自発的」に受け入れている(の)のだと気づかされる一冊でした。

滋野峻也／静岡営業部

『交わらないリズム』

出会いとすれ違いの現象学

村上靖彦
青土社 2,640円

我々が巡り合う「生のリズム」を主軸として、臨床のナラティブを精緻に分析し、さらには文学や哲学、そしてなによりも歌／音楽より読み取れるものから思考した、「クア」はさうあるべきかという問いに挑んだ結晶。さまざまなる芸術や思想を波のように編み込んだ構成そのものが、本書の鍵概念であるポリリズムを体現しているといっても良いかもしれぬ。

土井一輝／中部営業部

『哲学からへつがくへ』

対話を通して子どもたちをたすけた

森田伸子
勁草書房 2,420円

哲学的な対話が「子どもでもできる」ではなく「子どもだからできる」のではないかと、という逆説的な問いに気付かされます。正解のない困難な課題に向き合う意味・力を、子どもたちから教わりました。

高部知史／京都営業部

『感覚のヒューン』

岡崎乾二郎
集英社 3,960円

原発、教育、道元、ウナギイヌ……幅広い分野を精緻な眼差しで捉える稀代の批評家・岡崎乾二郎による批評選集。さまざまな時期・場所・媒体で紡がれてきた批評文は、図らずも方法論としての芸術を確立しており、それは著者自身が制作者であるからこそ著せる業だと思ふ。
小山大樹／札幌本店

『近代を彫刻／超克する』

小田原のどか
講談社 1,430円

近代から現在にいたるまで、あらゆる公共の場にて建てられている「彫刻」。彫刻家であり批評家である著者は、それが建てられた社会的背景をつぶさに見ていくことで、現在にも続く様々な問題を浮かび上がらせる。見慣れた風景がこれまでと違ってみえてくる。とても刺激的な一冊です。
林下沙代／札幌本店

『氏名の誕生 江戸時代の名前なぜ消えたのか』

尾脇秀和
筑摩書房 1,034円

江戸に百五十年足りずで、このまで名前の常識が変化していったのは驚きだ。「常識」は疑いにくいとはいえず、こまで「名」の変遷が知られていないのはなぜなのか。集団で健忘症にかかってしまったようだ。意図して隠されてもいないのになぜか見えていなかったものを明らかにする。新書とはいえない文書の醍醐味をあじわえる。
生武正基／新宿本店

『ULTRAS 世界最凶のクール裏ジャーニー』

ジエームス・モンタギュー／田邊雅之訳
カンゼン 2,750円

世界にはサッカーの試合内容とは別の目的で熱狂するファンがいる。彼らは「ウルトラ」と呼ばれ、国家により時に利用され都合の悪い時には粛清の対象にもされる。本書は単なるサッカードキュメンタリーにとどまらず、スポーツと国家、ナショナリズムについて考えさせられる内容となっている。
東一町順也／新宿本店

『人間狩り 狩猟権力の歴史と哲学』

グレゴワール・シャマユール／平田周・吉澤英樹・中山俊訳
明石書店 2,640円

狩る人間と狩られる人間。その両者の隔たりを絶えず創造してきた狩猟権力の歴史は、西洋政治思想史におけるダークサイドと言えるだろう。存在しないはずの差異による、人々を監視し、追跡し、排除するための様々な技術と権力。それらが私達の歴史において決して特異なものではないことは、本書が明らかに描き出している。中島宏樹／横浜店

『西暦一〇〇〇年』

フローバリーゼーションの誕生
ヴァレリー・ハンセン／赤根洋子訳
文藝春秋 2,420円

ある場所で起きたことが、遠く離れた別の地域に影響を与えるという現象が地球規模に及んだ（ビッグロバリーゼーション）のがこの西暦一〇〇〇年の時代だった。それは輪作など農業技術の向上によって生産量が増え、余剰生産物の交易が増えたことに起因するが、海図も羅針盤も持たずに広大な海に漕ぎ出した人類の偉業に思いを馳せる一冊。
森永達三／本町店

『イエスは戦争について何を教えたか』

暴力の時代に敵を愛するということ
ロナルド・J・サイダー／後藤敏夫訳／御立英史訳
あおぞら書房 2,860円

聖書を読み抜く、イエスの言葉を考え抜く。この真摯な姿勢に心打たれずにはいられない。
大藪宏一／ゆめタウン徳島店

『利他とは何か』

中島忠一・若松英輔・功功一郎・磯崎憲一郎／伊藤亜紗編
集英社 9,240円

人が他者と関わる時、そこには必ず意外性がある。コロナ禍で注目を浴びる「利他」の概念が様々な分野から論じられた良書だった。
池田匡隆／ゆめタウン下松店

『デヴィッド・ボウイ 無を歌った男』

田中純
岩波書店 5,000円

デヴィッド・ボウイの全キャリアにおける全作品を、歌詞と音楽、ファッションと発言・演奏活動全てを含むものとして詳細に分析。個人と社会、芸術と政治が不可分絡み合い、多様で複雑な面を見せる作品をそのまま複雑さのうちにとらえつつ、鋭い批評を加えていく圧巻の仕事。
藤本浩介／シンガポール本店

<じんぶん大賞2022選考委員>

- 松野享一 学術和書部
- 津畑優子 学術和書部
- 野間健司 学術洋書部
- 花田葉月 デジタル情報営業部
- 田伏也寸志 ECサービス部
- 井村直道 水戸営業所
- 滋野俊也 静岡営業部
- 土井一輝 中部営業部
- 高部知史 京都営業部
- 小山大樹 札幌本店
- 林下沙代 札幌本店
- 生武正基 新宿本店
- 東二町順也 新宿本店
- 中島宏樹 横浜店
- 森永達三 本町店
- 池田匡隆 ゆめタウン下松店
- 大藪宏一 ゆめタウン徳島店
- 藤本浩介 シンガポール本店

[事務局]

- 池田飛鳥 和書販売促進部
- 大田光穂 ブランド事業推進部
- 梶谷大地 ブランド事業推進部

